

花と緑の銀行だより

212号 2019.8



全国花のまちづくり南砺大会 2019.7.6～7 現地見学会 IOXアローザ

目次

- ・花と緑の提言 朝日町の花と緑のまちづくりについて（朝日支店） 2
- ・活動事例 ほしのふるまちの花壇づくり（氷見支店菰田地方銀行 寺井悦子） 3
- ・技術講座 富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン リアトリス（職藝学院 渡邊美保子） 4
- ・緑づくりコーナー 庭木に利用する樹種の特徴と管理 イヌツゲ（樹木医 西村正史） 5
- ・報告 全国花のまちづくり南砺大会の開催（南砺支店 南砺市農林課 長岡千夏） 6
- ・この人あり ガーデニング育成を目指して（滑川支店 滑川市公園緑地課 伊藤嘉亮） 7
- ・お知らせ 9月～12月の主なイベントなど 8



朝日町の花と緑のまちづくりについて

花と緑の銀行 朝日支店長

朝日町長 笹原 靖直

日頃より、花と緑の緑化推進に多大なるご支援とご尽力をいただいておりますことに、深く敬意と感謝を申し上げます。

さて、朝日町は富山県の東端に位置し、東は新潟県、西は入善町、南は黒部市と長野県に接しています。また、町の南東部には町名の由来となった標高2,418mの朝日岳、2,932mの白馬岳を主峰とする北アルプス連峰がそびえ、北は遠く能登半島を望むことができる日本海に面しており、豊かな自然環境に恵まれた町です。

舟川べりの桜並木は「あさひ舟川春の四重奏」として広く知られています。4月には、舟川の両岸約800メートルに280本の桜が咲き誇ります。この桜並木は、地元の舟川新桜並木保存会の方々によって昭和30年代の前半に植えられた桜が成木となり、今では県内外で名の知られる桜の名所となりました。また、かがり火でのライトアップも実施され、幻想的な夜桜も訪れる人々を魅了しています。桜の開花時期に合わせて、毎年同地区の方々がチューリップや菜の花を栽培されています。開花時期がうまく重なると残雪の北アルプス連峰、桜並木、チューリップ、菜の花による四重奏を楽しむことができます。近年では、県内はもとより全国各地、海外からも多くの方が訪れており、より一層賑わいをみせています。



写真1 あさひ舟川 春の四重奏

他にも、朝日小川ダムの下流には、ハーブ園「ハーバルバレーおがわ」があります。このハーブ園は、朝日小川ダム建設にともなう周辺環境整備事業の一環として、人々がくつろぐことができる公園づくりを目指し、平成3年度に整備されたものです。2.4haの園内にはラベンダーやペパー

ミント等の約5万株のハーブが植えられており、北アルプスに抱かれた自然のなか、芳香に囲まれながらゆっくりと過ごすことができます。

朝日町では、草花とのふれあいによって町民の生活の質を高め、心身ともに健康で豊かに過ごすことができる環境を整えたいと考えています。花と緑に囲まれ、潤いと安らぎに満ちた地域づくりを行うため、各地区の緑化推進のリーダーとなってお活躍されている地方銀行頭取・グリーンキーパーの方々のご協力を得て、春に緑化木や花苗、秋にはチューリップの球根等を地区花壇、小中学校及び公共施設に配布しております。

また、町民の皆様とともに花壇やプランターへの植栽や維持管理をしていただいているところであり、関係の皆様方に心から敬意を表し、感謝申し上げます。

今後とも花と緑の銀行、町民の皆様が一体となって活躍できる町づくりを推進してまいります。



写真2 花と緑に囲まれた潤いと安らぎの地域づくり
上：あさひ総合病院前 下：泊駅

ほしのふるまちの花壇づくり

花と緑の銀行氷見支店

藪田地方銀行グリーンキーパー 寺井悦子

藪田地区は、氷見市北部の海沿いにあり、映画「ほしのふるまち」の撮影場所になった垂姫伝説のある地であることや、実業家 浅野総一郎生誕の地として知られる地域です。

私たちは、藪田コミュニティセンター（以下、藪田CC）や国道160号線沿いの花壇を拠点に、自治会、グリーンキーパーら30名ほど活動しています。



写真1 垂姫伝説が伝わる海岸

1 花壇づくりの工夫

（花壇の改良） 国道沿いの花壇は雑草の根やこれまで植えた花苗の根が張り込んでおり、何を植えてもうまく育たない花壇でした。2年がかりで花壇の中の雑草や張り込んだ根をすべて除去しました。

次に、土作りを行いました。バーク堆肥、腐葉土、苦土石灰、そして花壇ではあまり使用されない珪酸塩白土を混ぜ合わせ、土壌を除菌し、緩効性肥料を与え、土の力を復活させるよう努めました。

その結果、以前とは比べ物にならない、大きくきれいな花が咲くようになりました。

（花苗の育成） 藪田CCの横に設置したビニールハウスで市から配布されたプラグ苗を育成しています。これまで、地面にトレーを直接置いていましたが、雨が降るとトレーが水没し生育が悪く全滅したこともありしました。そこで酒の瓶ケースの上で育成するようにしました。その結果、トレーが水につくこともなく、風通しも良くなり、以前よりもグリーンと苗の発育が良くなりました。これにより、花壇分の苗の他に地区で花苗が足りない場所があれば、配布できるようになりました。また、今年は株分け、差し芽を行い、地区に植える花苗を増やすよう努めています。



写真2 雑草取りに苦しんだ国道沿い花壇

（花壇のメンテナンス） 花のサイクルの基本は2週間であることをステップアップ研修（花と緑の銀行主催、頭取・GK研修）で学びました。日々の花がら摘み、枯葉の摘みとりに加え、2週間に1回のメンテナンス作業を心がけています。

水遣り当番の方々には、花がら摘みの方法を伝授し、最初は怖がって遠慮しがちでしたが、慣れてくると自主的に摘んでくれる方も増えてきました。

（良いと思ったものを植える） 昨年、安曇野ラ・カスタを訪れた際、スイスチャードが花壇に植えてありました。花壇に野菜を植える発想がなかったため、ぜひ取り入れたいと思い、国道沿いの花壇に植えてみたところ、葉脈がとてもきれいで、他の花と寄せ植えをしたことで、一風変わった花壇を作ることができました。これからも、花苗にこだわらず、野菜も加え花壇づくりの幅を広げていきたいと思っています。



写真3 左：野菜とサルビアを混ぜた花壇
右：藪田CC前の花壇

2 花壇づくりに対する周囲の意識変化

活動をはじめたばかりのころ、近所の人から「手伝おうか」「暑い日に無理するなよ」と声をかけてもらったり、飲み物の差し入れをもらったり、徐々に興味を持っていただけるようになっていきました。時には、耕運機を貸してもらうこともあり、今では重たい耕運機も扱えるようになりました。

また、今年の夏に印象的な場面に立ち会いました。藪田CC花壇の前で地区の納涼祭が行われた日、ある方がみんなで世話をしてきた花壇に腰をかけたのです。そのとき、「そんなことしたら花壇の花が潰れてしまうでしょ！」と注意する方が現れたのです。何も知らずに腰をかけられた方には気の毒でしたが、地区の花壇として認識されてきたのだと実感しました。

環境整備が行き届いている地区は防犯率が高いと聞きます。私たちの作っている花壇が、安全安心な地区づくりの一つとなることを目指しています。

今後は、花壇づくりを誰でも楽しめるように、花壇管理がしやすい品種をみんなで植えていきたいと思っています。

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン ～ 33 リアトリス ～

職藝学院

教授 渡 邊 美保子

リアトリスは、北アメリカ原産の多年草です。地下にある茎の先端が肥大しているため球根として扱われることもあります。7月になると、垂直に立ち上がった90cmほどの茎に濃い桃色の小花が上から下に向かってゆっくり咲き進みます(写真1)。桃色の糸を緑の棒にぐるぐる巻きつけたような姿は、夏の宿根草ガーデンのアクセントになります。花の色は赤紫、ピンク、白などがあり、草丈の低い品種もあります。

リアトリスは、5月になると茎のまわりに笹に似た細い葉をまわりつかせながら伸びてきます。6月の初めには、茎の先に松葉のような細い葉に囲まれた白いつぶつぶが現れます。これは、やがて花になるつぼみたちです。上から見るとその不思議な形に吸い込まれそうになります。つぼみをつけた茎は、どんどん伸びて茎にたくさんの緑色の花芽がくっついたような姿で立ち上がってゆきます。

リアトリスの最大の不思議は開花の瞬間です。先端の花芽が赤ワイン色に染まると、中から16個ほどの小さなつぼみがお行儀よく並んでいるのが見えてきます。筒状のつぼみが5つに割れて星のような形に開きますと、中から熟した雄しべの白い花粉が現れます。すぐに、その花粉の中からサクラ色の細長い雌しべが少しだけ顔を出します。雌しべは幅が1ミリ位、透き通るほどの薄さです。雄しべの白い花粉の衣を身にまといながら伸びて、一日で1センチほどの長さになります。そして一枚に見えていた帯状の雌しべがなんと、2枚にぱっくりと分かれ、まるで両手をVの字に広げたような姿になるのです(写真2)。2つに分かれた雌しべは一日ごとにくたびれて、くねくね曲がり、いつのまにか地面に落ちて消えてゆきます。残ったのはラッパ状の小さな小花の集団だけになります。これを上から順番に隣のつぼみに邪魔にならないよう繰り返してゆきます。雌しべが落ちてから2週間ほど過ぎると



写真2 咲き始めのリアトリス

花びらが茶色にくすんできますが、次々と順番待ちをしている花芽がふくらんで小花が咲いてゆくので、花の観賞期間は1ヶ月位になります。

リアトリスは日当たりと水はけの良い土壌を好みます。生育条件が良ければ一年ごとに花茎が増えて見栄えが良くなります。組み合わせは、開花期が重なるオミナエシやエキナセアなどを隣に植えると引き立ちます(写真3)。



写真1 リアトリス・スピカータ 7月初旬



写真3 リアトリスの園芸品種(中央)、左はエキナセア、右後方はオミナエシ 8月初旬

庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ イヌツゲ ～

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村正史

ボールのように丸く刈り込んだ樹木を玄関前や庭等でよく見かけます（写真1）。この樹木はイヌツゲといい、剪定に強いのでこのような形にすることができるのです。そのため、花木というよりも樹冠を色々な形にして楽しむことができる代表的な樹木の1つです。

1 特性

モチノキ科モチノキ属の常緑樹で、雌と雄が別々の樹木になっています。

雄花と雌花は5～6月頃に小さな花を咲かせますが（写真2）、目立ちません。この属の実の色は通常赤ですが、イヌツゲの場合は黒で、実も目立ちません。ところが、丈夫で長持ちし、日陰でも育ち、好きな形に剪定できるという利点があります。

よく似た樹木にツゲ科ツゲ属のツゲがあります。両者は葉の付き方が違います。ツゲは対生、イヌツゲは互生です。

2 管理

日陰でも育ちますが、できるだけ日当たりの良い場所に植えます。その場所の土壤が悪い場合は、腐葉土等を投入し、水はけをよくするとともに肥沃な土壤にします。冬には、寒肥として緩効性肥料を投入します。根が浅いので、乾燥した日が続く場合は散水します。

一定の形を維持するためには剪定が必須で、秋を除けばいつでもよく、こまめに実施します。

注意すべき病虫害としては、ハマキムシ類の幼虫による食害とイヌツゲ枝枯病による枝枯れです。

前者は年数回発生し、枝先を糸で束ねてすみかとし、若い葉を食べます。放置すると枝全体に被害が広がり、茶色い葉で覆われます。スピネトラム水和剤（商品名：ディアナSCの2,500～5,000倍液を発生初期に散布）で対応します。

後者は枝枯れが発生するので、樹冠の形が壊れていきます（写真3）。発病初期にチオファネートメチル水和剤（商品名：トップジンM水和剤の1,000倍液を散布）あるいはベノミル剤（商品名：ベンレート水和剤の2,000倍液を散布）で対応し

ます。

生垣では、萌芽力が強いことを応用して、枝葉をほぼ全て切除する方法があります。その際、他への感染を防ぐため、作業の都度ハサミの消毒と切除した枝葉の処理を必ず実施します。



写真1 富山市内の民家玄関前のイヌツゲ（2019.7.16撮影）



写真2 イヌツゲの小枝（左）と雄花の拡大写真（右）
物差しの最小単位：1mm
名畑樹木医が持参されたものを撮影（2019.5.29）



写真3 イヌツゲ枝枯病の被害を受け、枝枯れが著しいイヌツゲ（高岡市内の民家にて 2018.9.1撮影）
左：全景 右：被害を受けた枝

全国花のまちづくり南砺大会の開催

花と緑の銀行南砺支店

南砺市農林課 長岡 千夏

全国花のまちづくり地方大会は、花のまちづくりの普及・啓発を目的として、日本花の会等の推進協議会が地方自治体と共催し、毎年、全国各地で開催しています。南砺市を会場に開催された今年の大会は25回目となり、富山県内では平成8年(1996)の富山大会以来の開催となりました。

南砺市では、山田政寛大会実行委員長(福光支所長、北山田地方銀行頭取)のもと、各支所長はもちろんのこと、関係機関に協力を求め、実行委員会を設け一年前から準備にあたってきました。

大会当日、7月6日(土)、7日(日)は、梅雨空の晴れ間のなか、県内外からのお客さまや大会スタッフあわせて約600人の皆さまに参加いただき、盛大に開催することができました。



写真1 田中幹夫 南砺市市長による歓迎のあいさつ

1 式典(7月6日)

福野文化創造センター「ヘリオス」を会場に、南砺平高等学校郷土芸能部の皆さんによる「五箇山民謡」で幕開けし、引き続き事例発表、特別講演会が行われました。

(1) 事例発表

① 山崎久夫さん(朝日町、2017全国花のまちづくりコンクール大賞): 春の四重奏(さくら、チューリップ、菜の花、残雪の朝日岳)による風景を、地域の皆さんと一緒に作り出し、地域・町の活性化に取り組んでこられた苦労話を、山崎さんの思い、心情を織り込みながら発表いただきました。山崎さんのユーモア溢れる富山弁に、会場は笑いと感心の渦に包まれました。



写真2 事例発表 山崎久夫さん

② 南砺市の花のまちづくり(南砺市役所 佐藤としえ): 「花で飾るおもてなし」、「花壇コンクール」、「住民参加によるイベント開催」を中心に、南砺市で進めてきた花のまちづくりについて発表しました。テーマパーク主体の全国の著名な花の

地、個人のオープンガーデンなどとは異にした、「地域の皆さんが主体となり、地域に根付いた」富山らしい花のまちづくりについて紹介しました。

(2) 特別講演会

辻本智子さん(兵庫県淡路島 奇跡の星の植物館プロデューサー)による、「ガーデンルネサンス南砺」と題した講演では、「世界遺産合掌集落の南砺の地には和の植物が似合います。あたり前にある和の文化を活かし、日本文化を大事にした花と緑のまちづくりを進めましょう」と、提言いただきました。

2 現地見学会(7月7日)

二日目には、約40名が参加し、合掌造り集落や井波八日町通りの花飾り、市園芸植物園の「花と緑のフェスティバル」などを回る現地見学会が催されました。

玉成花壇・梅ヶ島フラワーロード・桐木花の道(福野)、イオックスヴァルト(福光)など、南砺市の自然と街中に点在する花壇では、それぞれ取り組んでいる地域の頭取、グリーンキーパー(以下、GK)らがお迎えし説明しました。

県外の参加者からは「デザイン、草種の選択が大事」「一年草主体では管理がつかうくないですか」「宿根草、花木、和の草種をもっと主体とした植栽にすれば、南砺の地にはマッチするのでは」「何を中心にもってきたいかメリハリが大事」など、たくさんのご指導、ご感想をいただきました。

また、「頭取、GKさんが中心になって、こんなに素晴らしい地域花壇を手づくりされていることを知ることができました。私たちの地にはない、とても素晴らしい花壇です」などの声もいただき、今後の大きな励みとなりました。



写真3 現地見学会

左上: 菅沼集落・合掌の里 右上: 南砺市園芸植物園
左下: 梅ヶ島フラワーロード 右下: イオックスヴァルト

3 おわりに

日本花の会や、花と緑の銀行本店、市観光協会、南砺造園業協会、華道連合会、市内保育園など関係団体のご協力、そして、なによりも南砺支店各支所の頭取、GKの皆さんの奮闘により、無事、開催することができました。また、県内の花と緑の銀行各支店の頭取、GKの皆さんにも大勢、足をお運びいただきました。皆さまのご協力、ご支援に、心より感謝申し上げます。

県内外の多くの方々に南砺の地に根ざした文化や花のまちづくりを体感いただき、また訪れてみたいと思っていただけたら嬉しく思います。式典会場や現地花壇、そして、南砺の幸でおもてなした交流会では、南砺に住む私たち自身、改めてこの地の豊かさについて考えることができました。

このことは、全国花のまちづくり南砺大会開催の大きな意義、成果であると感じています。この体験を、今後の南砺の花のまちづくりに活かしていければと、関係者一同、思っています。



写真4 大会でのおもてなし

左上：式典ステージ花飾り準備

右上：バンブーレインボー（南砺造園業組合）

左下：南砺平高等学校郷土芸能部によるオープニング

右下：福光もちつき太鼓保存会による交流会アトラクション

この人あり



ガーデニング育成を目指して

花と緑の銀行滑川支店

滑川市公園緑地課 伊藤 嘉亮

「皆さんこんにちは」、花と緑の銀行滑川支店で。今回紹介するメンバーは、「滑川市花と緑の活動推進協議会」の頭取でもグリーンキーパーでもありません。

「!?」と思われるかも知れませんね。私達の正体は「滑川市職員で結成されたメンバー」です。なぜ結成されたかというところ…話しは10年程前に遡ります。

当時の滑川市は、富山県の中で“公園が少ない市”というある意味“不名誉な市”でした。

上田市長は「これではいけない。公園を増やして滑川市を緑豊かな街にしよう」と奮起し、それから「スポーツ・健康の森公園」（平成26年完成）、「いをのみ公園」（平成27年完成）、そして「滑川運動公園」（平成31年完成）ができて、今では“他の市町村にも負けない緑豊かな公園がある市”へ生まれ変わりました。

ハード（公園）は完成しました。次はソフト（人材育成）の番です。市長の号令のもと、全職員へ有志を募り、部課の垣根を超えて結集したのが今回のメンバーです。そして「専門知識を得て、市内の公園や花壇の緑を市民と協働により育てていく」ことを命題に、このたび花と緑の銀行が主催する「ステップアップ研修」に参加させていただきましたことになりました。



写真1 講義「作ってはいけない植物、有毒な植物」
（中田 中央植物園長）



写真2 寄せ植え実技講習
（島先生）



写真3 花壇実技講習

メンバーは皆、ガーデニングが好きで日頃から園芸に親しんでいます。しかし、研修で学ぶことはどれもハイレベルなもので毎回驚くことばかりです。

土作り、土壌のpH、花苗の植栽、日々の管理…、日ごろ何気なく行っている行為1つ1つに意味があり、その手間を惜しむことなく確実に行うことによって、花苗が大きく美しく成長することを教えられます。

研修があった日の昼食や帰り道には、お互いの知識や理解度を確認するため!研修内容の事を話しますが、皆ついつい白熱してしまうことも…（笑）

さらに今年はグリーンアドバイザー認定資格にも挑戦します。これは花と緑の指導や助言ができる「園芸の精通者」へ与えられる資格で、高い専門知識や経験が必要となり、講習や試験を経なければなりません。こちらも頑張って資格を取得し、滑川市の緑づくりへ還元していきたいと考えております。

終わりに、簡単な活動紹介となってしまうしましたが、市民の皆様と共に滑川市を緑豊かな街へと取り組んでいく所存です。滑川市へお越しの折には、ぜひ市内の公園や花壇にもお立ち寄りください。そして心潤うひとときを過ごしていただけたら、こんなに嬉しいことはありません。

🌸🌿 お知らせコーナー (9月～12月の主なイベント)

🍃 富山県花と緑の祭典2019 “第47回花と緑の大会”を開催します。

- ・日時 令和元年10月30日(水) 13:30～16:00
- ・場所 富山県民会館ホール
- ・内容

- (1) 花と緑の功労者表彰
- (2) 富山県花と緑のコンクール入賞者表彰
- (3) 花と緑の講演会

演題 「花のまちづくりスキルアップ～花の育種 私流～」

講師 安藤敏夫氏

千葉大学名誉教授、ガーデンそよかぜ園主



2018 第46回大会の表彰様相

🍃 富山県中央植物園

○特別展「二口善雄植物画展」～植物画界パイオニアの画業を振り返る

9月13日(金)～10月14日(月・祝)

○第13回秋のラン展 11月22日(金)～24日(日)

栽培講習会「ランの栽培と管理」

11月23日(土)・24日(日) 14:00～15:30

○クリスマスフェア 12月6日(金)～8日(日)

～コンサート、クリスマス飾り作り(有料)、クリスマス関連植物販売など～

○花と緑のコンクール入賞作品展 12月13日(金)～27日(金)

(詳細はHPをご覧ください。お問い合わせは富山県中央植物園へ。参加には入園料が必要です。)



クリスマスフェア 2018.12.7

🍃 県民公園 頼成の森

○ドングリ工作教室 9月22日(日) 9:30～12:00 定員:30名 参加費:300円

○キノコ狩りと観察会 10月13日(日) 10:00～13:00 定員:50名 参加費:400円

○守り人と歩く頼成の森(秋編) 10月27日(日) 10:00～12:00 定員:なし 参加費:無料

○頼成の森“感謝の集い” 11月17日(日) 9:30～14:00

・林内散策、オカリナ演奏、抽選会、キノコ汁など 定員:なし 参加費:無料

・リースづくり教室 定員:30名 参加費:600円

・干支づくり教室 定員:40名 参加費:300円

(詳細はHPをご覧ください。申し込み・お問い合わせは県民公園 頼成の森へ。)



第34回頼成の森 花しょうぶ祭り 6.13



富山県中央植物園 夜間開園「ゲッカビジン観賞」 7.9

編集発行 公益財団法人 花と緑の銀行
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-2425 FAX 076-465-5923
<https://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-4187 FAX 076-465-5923
<https://www.bgtym.org/>

県民公園頼成の森
〒939-1431 砺波市頼成156
TEL 0763-37-1540 FAX 0763-37-1450
<https://www.bgtym.org/ranjyounomori/>



花と緑の銀行だより 212号

発行日 令和元年(2019年)8月
再生紙を使用しています。